

2015年9月期 第2四半期

連結決算説明資料

(2014年10月-2015年3月)

株式会社 FPG

(code:7148)

東証1部



2015年4月

2015年9月期	第2四半期	業績ハイライト	P3
2015年9月期	第2四半期	レビュー	P4
2015年9月期	第2四半期	トピックス	P5～6
2015年9月期	第2四半期	タックス・リース・アレンジメント事業の状況	P8～9
2015年9月期	第2四半期	出資金に含まれる手数料について	P10
2015年9月期	第2四半期	損益計算書	P12
2015年9月期	第2四半期	貸借対照表	P13
2015年9月期		業績予想	P15
2015年9月期		配当予想（2015年4月30日付）	P16
FPGの継続的成長の要因（強み）			P17
中期的な経営戦略			P18
事業概略図 収益構造の多角化に向けた取組み			P19

2015年9月期 第2四半期 業績の総括



◆ タックス・リース・アレンジメント事業が引続き好調、大幅増収増益

企業収益の改善、法人実効税率の段階的引き下げ実現期待を背景に、業績好調な投資家(顧客)からの需要が強く推移し、下半期に販売予定であった出資金を前倒して販売する等、出資金の販売が増加したため、オペレーティング・リース事業の出資金販売額は、47,463百万円(前年同期比168.8%増)と大幅に増加。その結果、その他の事業を含めた売上高・利益は、前年同期に比べ、大幅な増収増益を達成した。

【百万円】	2014年9月期 第2四半期	2015年9月期 第2四半期	増減	増減率	2015年9月期 通期予想 (3/9修正後)	通期予想 進捗率	2014年9月期 通期実績
売上高	3,094	8,246	5,152	166.5%	12,176	67.7%	6,257
営業利益	1,750	5,874	4,123	235.5%	7,778	75.5%	3,461
経常利益	1,484	5,849	4,364	293.9%	7,701	76.0%	3,263
四半期 (当期) 純利益	907	3,700	2,792	307.8%	4,773	77.5%	1,988
オペレーティング・ リース事業 組成金額	52,747	133,083	80,335	152.3%	253,000	52.6%	168,613
出資金 販売額	17,655	47,463	29,807	168.8%	67,609	70.2%	37,899

▶ 主なトピックス

1月	9日	格付取得後、コマーシャル・ペーパー(CP)を初めて発行 (→P5「資金調達」参照)
	30日	業績予想の上方修正を発表
3月	2日	支店の開設及び組織変更を発表
	9日	業績予想の上方修正、株式分割、定款の一部変更、配当予想の修正及び株主優待制度の変更を発表

▶ トピックス – タックス・リース・アレンジメント事業

組成面

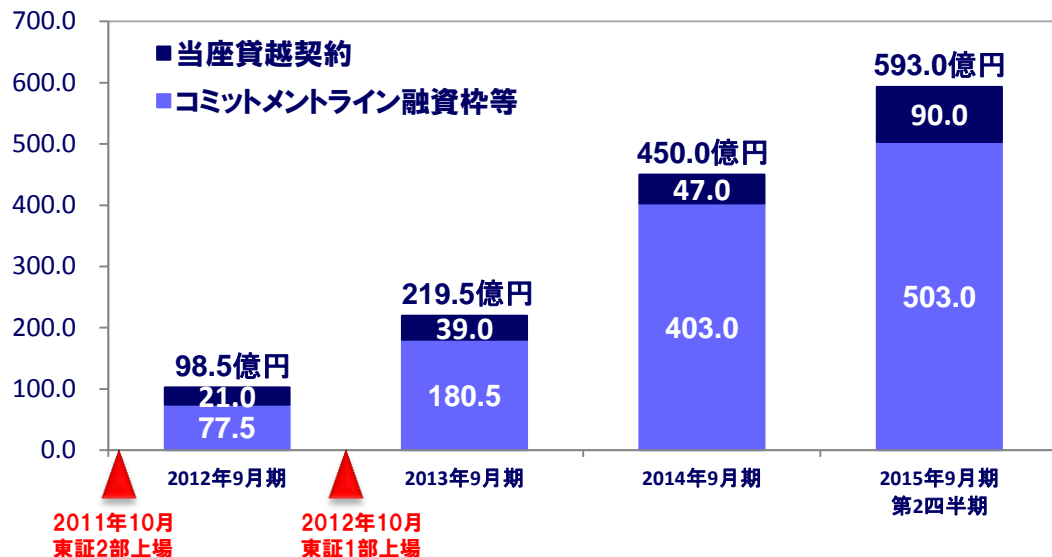
- ◆ 案件組成のサポートを行う合併会社 (FPG AIM B.V. 及びその100%子会社であるFPG AIM ASIA PTE. LTD.) の機能強化による組成能力の向上
上記合併会社のアレンジによるリース事業組成金額は前年同期比で約2倍へ増加。
- ◆ 資本業務提携している航空機のリースマネジメント会社アメンタム社との関係強化
アメンタム社のアレンジにより、新規賃借人1社との間で航空機リース2件を組成
- ◆ 組成の拡大に対応した資金調達力の確保
資金調達手段の多様化・安定化を図るため、CPの発行を実施 (→P5「資金調達」参照)

販売面

- ◆ 販売ネットワークの拡充
当四半期に208会計事務所、5金融機関と提携 (→P6「販売ネットワークの拡大」参照)
- ◆ 仙台支店、広島支店、高松支店を開設
より一層地域に密着した営業活動を実現



資金調達枠は593億円（前期末比31.8%増）と、引続き拡大傾向



JASDAQ上場(2010年9月)前の資金調達枠は15億円程度であったが、JASDAQ上場後、東証2部、東証1部への上場により、金融機関からの信用力が飛躍的に向上。また、JASDAQ上場前の取引銀行数は7行であったが、当四半期末には、51行へと拡大。



資金調達手段の多様化・安定化

2014年10月8日付、(株)日本格付研究所(JCR)より格付を新規取得したことを受け、今年1月よりコマーシャル・ペーパー(CP)の発行を実施。

2015年9月期第2四半期 CP発行累計	2015年3月末日 残高
50億円	20億円

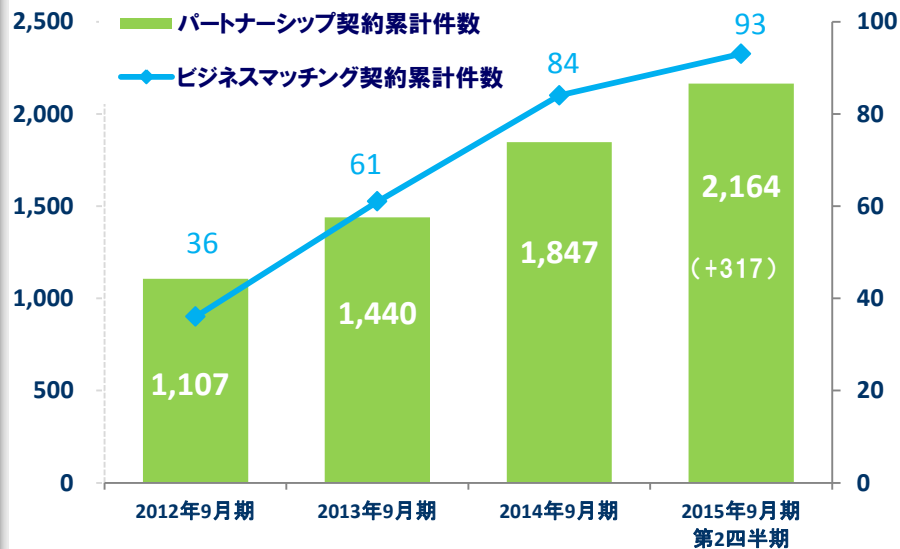
格付の取得を受けて、長期・短期資金の調達を行う等、資金調達の多様化・安定化を図る。

トピックス - 販売ネットワークの拡大

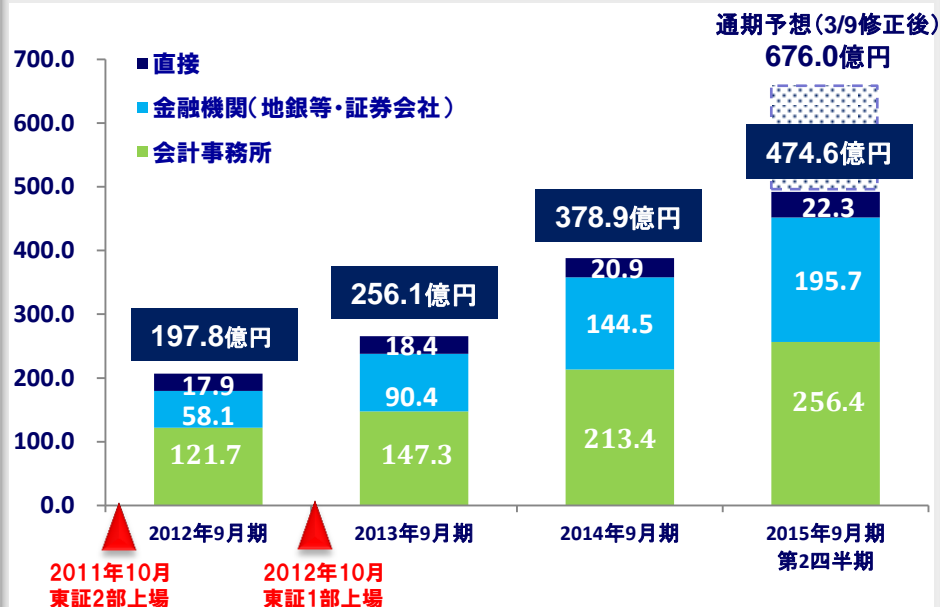
全国の会計事務所及び金融機関との提携拡大（10末比 208事務所、地銀等4行、証券1社 増）
特に地銀を中心とした金融機関からの大口投資家（顧客）の紹介が増加



会計事務所とのパートナーシップ契約件数と
金融機関とのビジネスマッチング契約件数



ネットワーク別出資金販売額の推移



2015年9月期 第2四半期 營業概況



◆ 積極的な案件組成と、好調な販売環境により、業績が大幅伸張

組成面

案件組成のサポートを行う合併会社と連携を推進し、資本金調達力の向上を背景に積極的な案件組成を行った結果、オペレーティング・リース事業組成金額は、前年同期比152.3%増の133,083百万円となった。

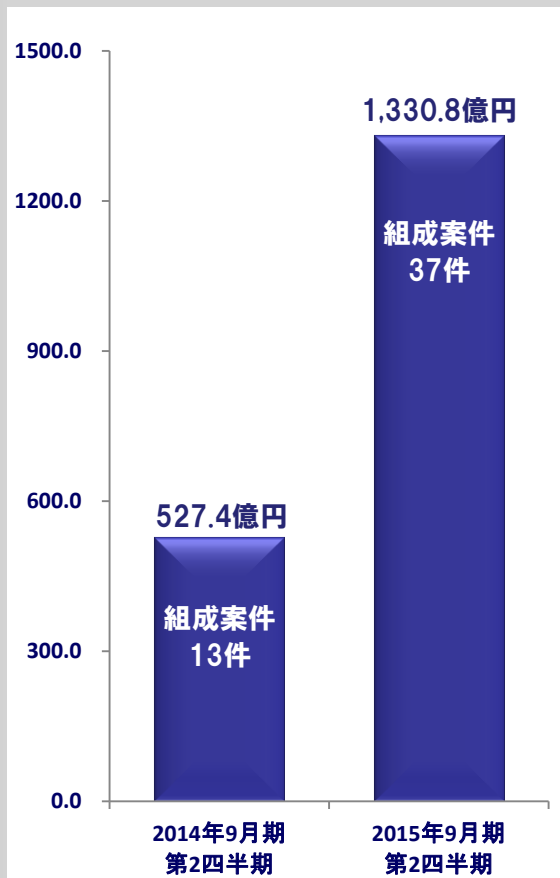
販売面

企業収益の改善、法人実効税率の段階的引き下げ実現期待を背景に、業績好調な投資家からの需要が強く推移し、販売ネットワークの拡大による販売力の向上とあいまって、下半期に販売予定であった出資金を前倒して販売する等、出資金の販売が増加したため、出資金販売額は前年同期比168.8%増の47,463百万円となった。

(百万円)	2014年9月期 第2四半期	2015年9月期 第2四半期	増減	増減率	2015年9月期 通期予想 (3/9修正後)	通期予想 進捗率	2014年9月期 通期実績
オペレーティング・リース事業 組成金額	52,747	133,083	80,335	152.3%	253,000	52.6%	168,613
出資金 販売額	17,655	47,463	29,807	168.8%	67,609	70.2%	37,899
船舶	—	22,100	22,100	—			5,224
コンテナ	8,471	9,909	1,438	17.0%			12,289
航空機	9,184	15,452	6,268	68.3%			20,385
購入社数（累計）	412	786	374	90.8%			834
タックス・リース・ アレンジメント事業 売上高	2,740	7,822	5,082	185.5%	11,114	70.4%	5,444
手数料(売上高/出資金販売額) フルエクイティ案件を除く	15.5%	16.5%	1ポイント	—			14.4%

オペレーティング・リース事業 組成金額

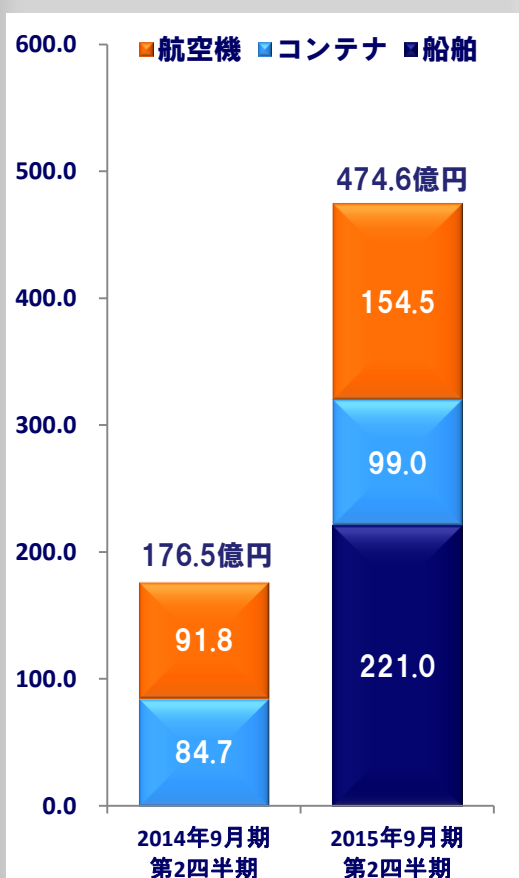
対前年同期比 152.3%増



* 案件数に関してはSPCの数をカウント

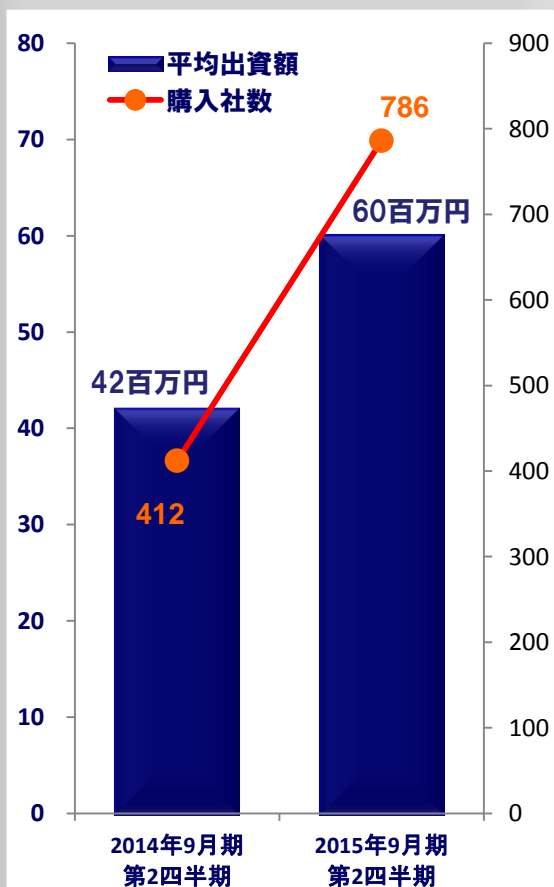
リース物件別出資金販売額

対前年同期比 168.8%増

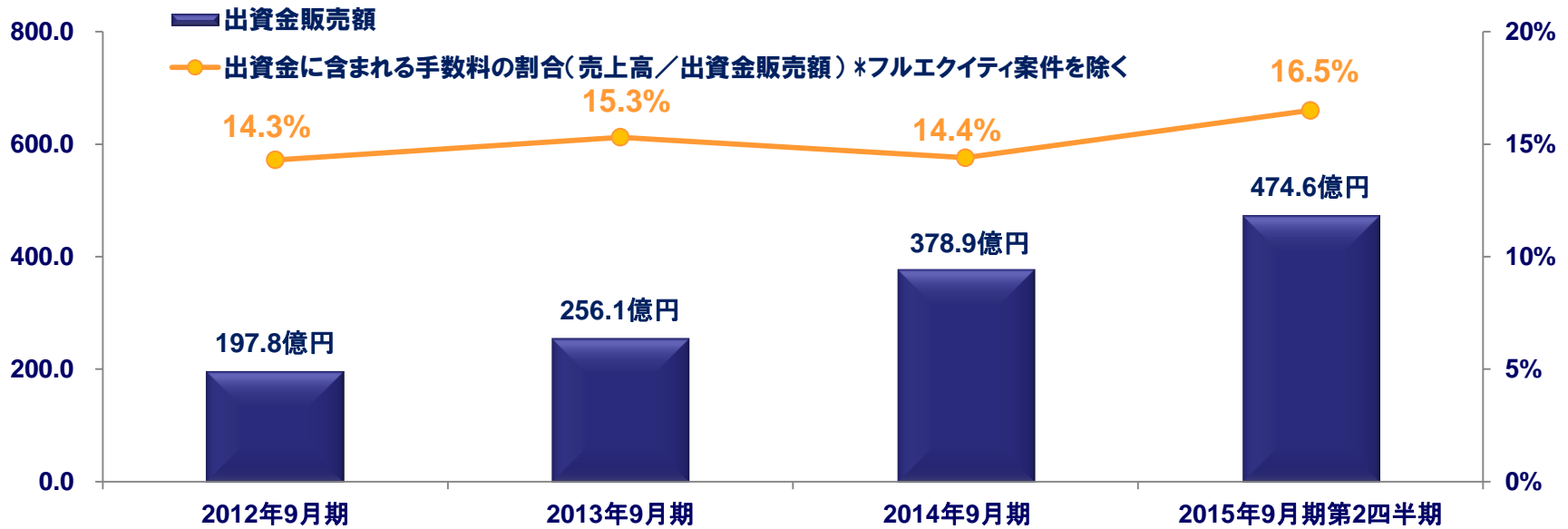


購入社数 (累計)/平均出資額

対前年同期比
374社増 / 18百万円増



2015年9月期 第2四半期 出資金に含まれる手数料について



(億円)	2012年 9月期	2013年 9月期	2014年 9月期	2015年 9月期 第2四半期
タックス・リース・アレンジメント 事業売上高	26.6	37.4	54.4	78.2
出資金販売額	197.8	256.1	378.9	474.6
出資金に含まれる手数料の割合 (売上高／出資金販売額) * フルエクイティ案件を除く	14.3%	15.3%	14.4%	16.5%

*フルエクイティ案件とは、借入金を調達せず、すべて投資家からの出資金にて資金調達する案件である。なお、通常はオペレーティング・リース事業を組成する際、借入金及び出資金にて資金調達を行う。

出資金に含まれる手数料の推移

旺盛な投資家需要に応えるため、積極的に案件を組成。出資金に含まれる手数料については、直近数期において概ね14~15%台に推移しており、他の金融商品に比べ、高い収益性を維持している。
なお、当第2四半期は高収益案件の販売により16.5%となった。

2015年9月期 第2四半期 財務ハイライト



2015年9月期 第2四半期 損益計算書

(百万円)	2014年 第2四半期	2015年 第2四半期	増減
売上高	3,094 ①	8,246	5,152
売上原価	424 ②	1,077	653
売上総利益	2,670	7,168	4,498
販売管理費	919 ③	1,294	375
営業利益	1,750	5,874	4,123
営業外収益	104 ④	413	309
営業外費用	370 ⑤	438	67
経常利益	1,484	5,849	4,364
特別損失	1	4	2
税引前四半期純利益	1,483	5,845	4,361
法人税等合計	575	2,144	1,569
四半期純利益	907	3,700	2,792

① 売上高 8,246百万円 (+5,152百万円) 単位:百万円

タックス・リース・アレンジメント事業	7,822 (+ 5,082)
不動産関連事業	96 (△ 15)
保険仲立人事業	170 (+ 27)
証券事業	85 (△ 5)
投資顧問事業	29 (—)
信託事業	17 (—)

② 売上原価 1,077百万円 (+653百万円) 単位:百万円

案件組成コスト	145 (+ 93)
顧客紹介者への支払手数料	927 (+ 555)

→タックス・リース・アレンジメント事業の売上げが好調だったことから、顧客紹介に係る手数料が増加。

③ 販売管理費 1,294百万円 (+375百万円) 単位:百万円

人件費	640 (+ 219)
-----	-------------

→主に、積極的な人材採用、連結子会社の増加により、人件費、その他の費用が増加。

*連結従業員数 前年同期末85名 → 当期末118名 (+33)

④ 営業外収益 413百万円 (+309百万円)

リース開始後に商品出資金を販売した場合、経過分の利息(立替利息)を投資家(顧客)から徴収し、受取利息として計上しているが、出資金販売額の増加に伴い、立替利息が増加。その他、組成不動産の不動産賃貸料、業容拡大に伴う関連会社の持分法投資利益が増加。

⑤ 営業外費用 438百万円 (+ 67百万円)

コミットメントライン契約の拡大による支払手数料、および資金調達の拡大に伴う支払利息等が増加。

2015年9月期 第2四半期 貸借対照表

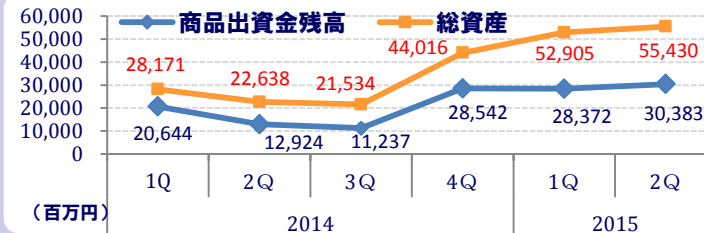
資産 (百万円)	2014年9月期 期末	2015年9月期 第2四半期末	増減
流動資産	42,278	52,895	10,617
現金及び預金	4,092	5,450	1,358
商品出資金	28,542	30,383	1,841
組成用不動産	3,403	2,305	△1,097
その他 流動資産	6,240	14,755	8,514
固定資産	1,737	2,453	715
繰延資産	—	82	82
資産合計	44,016	55,430	11,414

負債 (百万円)	2014年9月期 期末	2015年9月期 第2四半期末	増減
流動負債	31,968	38,483	6,514
短期借入金等	21,580	19,942	△1,638
前受金	4,404	5,076	671
その他 流動負債	5,983	13,464	7,480
固定負債	1,497	3,525	2,027
長期借入金・社債	1,301	3,315	2,014
その他 固定負債	196	209	13
負債合計	33,466	42,008	8,541

純資産 (百万円)	2014年9月期 期末	2015年9月期 第2四半期末	増減
資本金	3,072	3,077	4
資本剰余金	3,022	3,027	4
利益剰余金	4,441	7,311	2,870
自己株式	△0	△0	—
為替換算調整勘定	14	7	△7
純資産合計	10,549	13,422	2,872
負債純資産合計	44,016	55,430	11,414

1 商品出資金 30,383百万円 (+1,841百万円)
 旺盛な投資家需要により、出資金の販売を進めたが、積極的に案件組成を行ったため、商品出資金は前期末残高を上回り、過去最高額。下半期以降(来期を含む)に販売予定の出資金を確保。

商品出資金の
取得資金は
主にコミットメント
ライン融資枠等の
短期借入金で調達
(一時的な立替取得)



2 組成用不動産 2,305百万円 (△1,097百万円)
 プラチナコート広尾、Qiz青山の2物件を発売中。

3 その他 流動資産 14,755百万円 (+8,514百万円)
その他 流動負債 13,464百万円 (+7,480百万円)
 証券事業の通貨関連店頭デリバティブ商品の提供に際し、顧客とデリバティブ取引契約を締結するとともに、カバー取引として金融機関とデリバティブ取引契約を締結。その結果、資産側にデリバティブ債権とカバー取引先への差入保証金、負債側にデリバティブ債務と顧客からの受入保証金を計上。為替変動等によるデリバティブ取引の時価変動等のため、デリバティブ債権・債務、差入・受入保証金が増加。

4 前受金 5,076百万円 (+671百万円)
 当四半期末の商品出資金の増加及び手数料率の向上により、下半期以降に販売予定の商品出資金に係る手数料の前受金が増加。

5 長短借入金等 23,258百万円 (+376百万円)
 商品出資金の取得原資等の資金需要が増加。当四半期はCP発行を実施。

6 純資産 13,422百万円 (+2,872百万円)
 前年度の期末配当812百万円を実施した一方で、四半期純利益3,700百万円の計上により増加。自己資本比率は、24.2%(前期末比+0.2)。

2015年9月期 業績予想



2015年9月期 業績予想

(百万円)	2015年9月期		2015年9月期	通期業績予想 進捗率
	上半期 (実績)	下半期 (予想)	通期予想	
売上高	8,246	3,929	12,176	67.7%
タックス・リース・ アレンジメント事業	7,822	3,291	11,114	70.4%
その他	424	637	1,062	39.9%
営業利益	5,874	1,903	7,778	75.5%
経常利益	5,849	1,851	7,701	76.0%
四半期 (当期) 純利益	3,700	1,072	4,773	77.5%
オペレーティング・リース 事業組成金額	133,083	119,916	253,000	52.6%
出資金販売額	47,463	20,145	67,609	70.2%

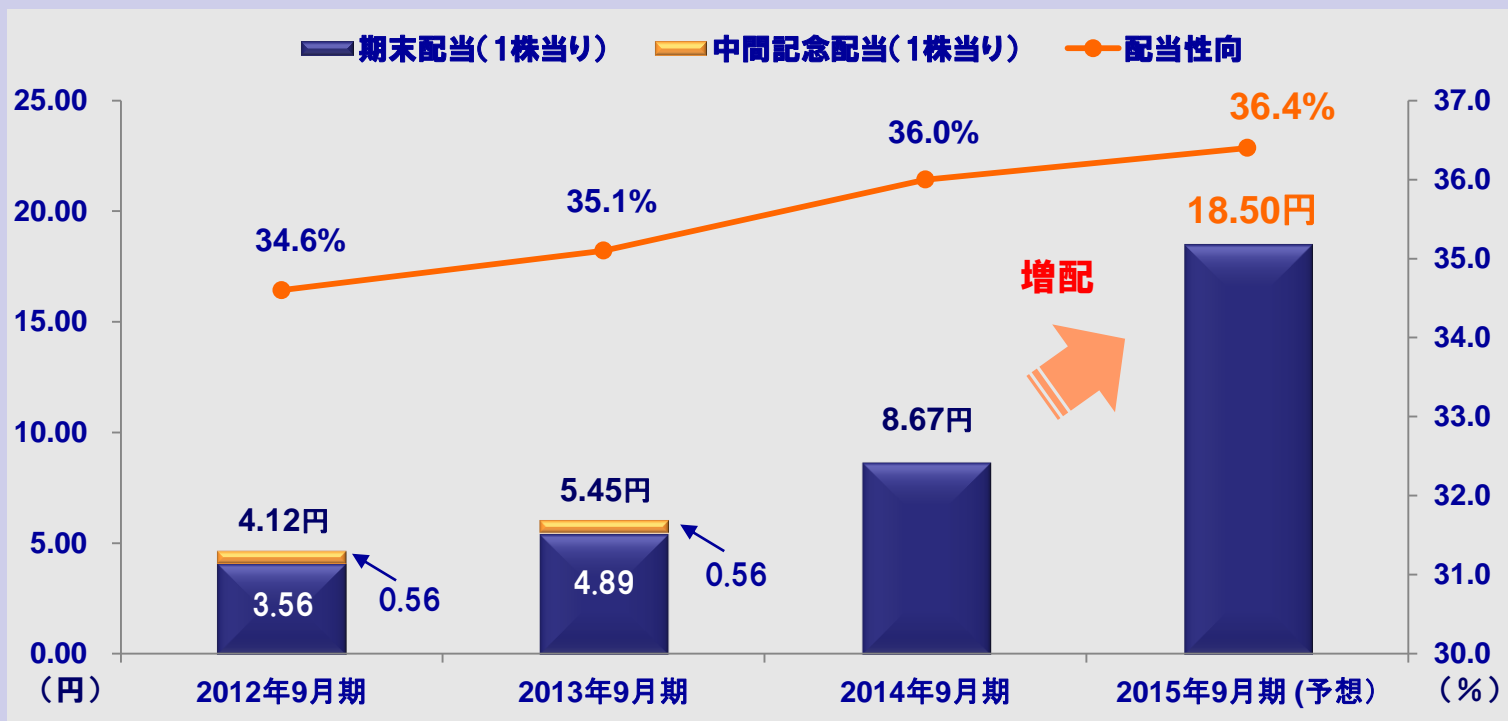
オペレーティング・リース事業の案件組成が好調に推移し、出資金の販売についても、投資家からの強い需要を背景に、出資金販売額が計画を上回る水準で推移したことから、2015年3月9日付で上記の通り、修正いたしました。

上半期の実績が、通期の予想と比べ、その進捗率が高くなってはおりますが、これは投資家からの旺盛な需要にこたえるべく、下半期に販売予定であった出資金を前倒して販売する等、当初の計画上、下半期に計上される予定であった売上高、利益が上半期に計上されたことによるものです。

✓ 期末配当 (予想) は1株当たり18円50銭に増額 (従来予想10円34銭)

経営基盤の強化と事業機会を確実に捉えるために、十分な内部留保を維持することに留意しつつ、株主の皆様へ適切な利益を還元することが配当政策上重要であると考えており、業績の状況や将来の事業展開などを総合的に勘案し、**目標連結配当性向を概ね30%以上に設定**。

2015年9月期は従来、1株当たり10円34銭を予想しておりましたが、業績の見通しを鑑み、期末配当を1株当たり18円50銭に増額。連結配当性向は36.4%。



(注1) 株式分割に伴う影響を加味し、遡及調整を行った数値を記載。

(注2) 2012年9月期の中間配当は東証2部上場及び当社設立10周年に関する記念配当であり、また、2013年9月期の中間配当は東証1部上場に関する記念配当である。

1. 商品力

顧客ニーズに対応した商品の提供

JOLをはじめ、不動産小口運用商品、保険、証券、投資顧問、信託など多様な商品をワンストップ型で提供

2. 販売ネットワーク

全国の会計事務所、金融機関との提携による販売ネットワーク

2015年9月期第2四半期 会計事務所2,164 金融機関93

3. 資金調達力

銀行とのコミットメントライン融資枠契約の拡大

2015年9月期第2四半期 資金調達枠593億円

4. 収益性

収益性と効率性を追求し、高いROEを維持

2014年9月期 ROE 26.4%(東証一部上場平均8.2%)

5. 労働生産性

従業員1人当たりの営業利益は約35百万円(2014年9月期)と高い労働生産性を確保

✓ 成長戦略の推進

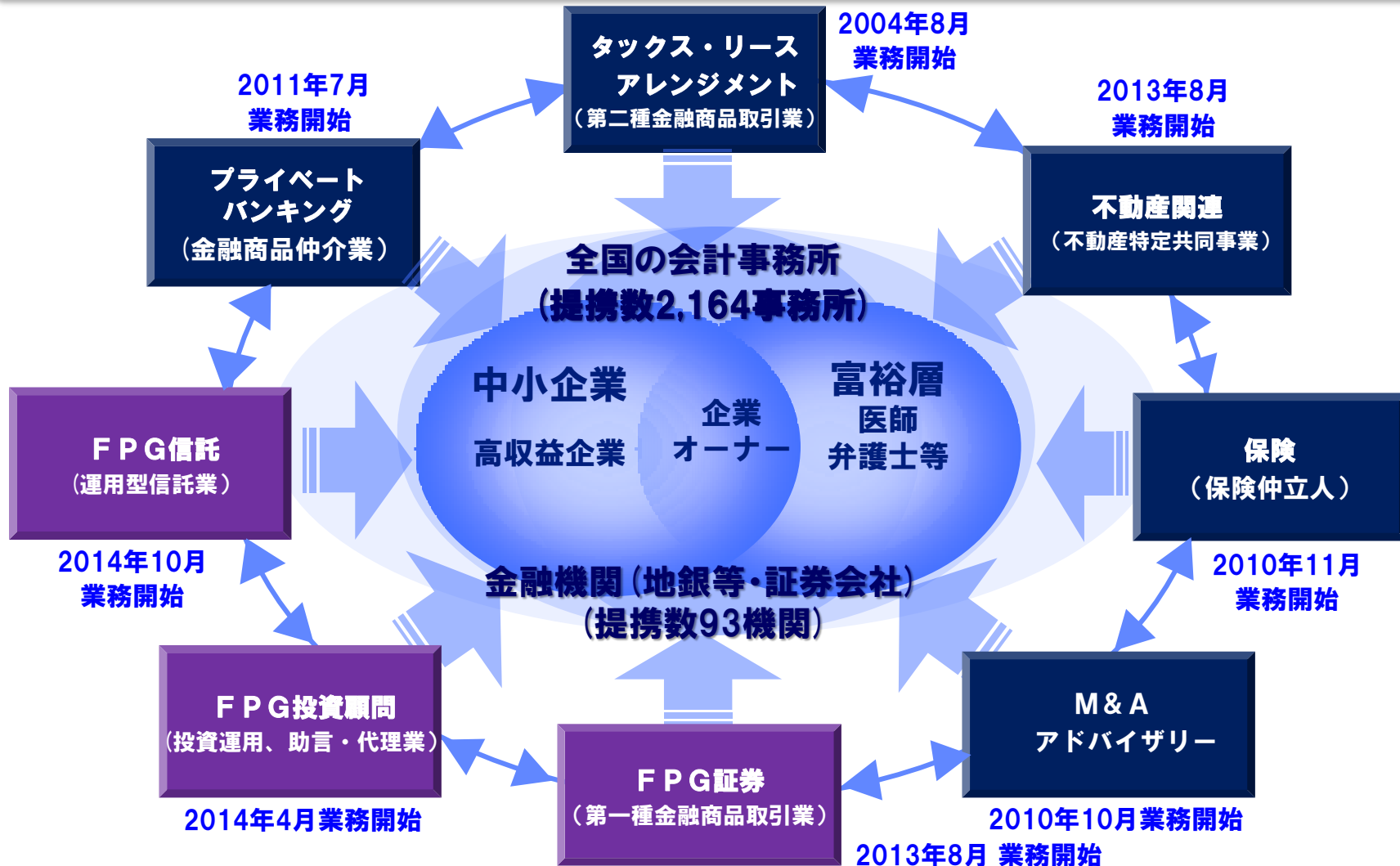
- **タックス・リース・アレンジメント事業の継続的強化**
- **収益構造の多角化**
高収益な中小企業及び富裕層をターゲットとしたワンストップ型ファイナンシャルサービス業へ
- **新規ビジネスの拡充**
運用型商品の開発

✓ 経営基盤の強化

- **持続的成長のための専門家集団育成**
少数精鋭主義を前提とし、スペシャリスト人材の育成
- **安定かつ機動的な資金の確保**

事業概略図 収益構造の多角化に向けた取り組み

高収益なオーナー企業及び富裕層に対して、各種金融商品・サービスを提供するワンストップ型ファイナンシャルサービス業を目指す



- 本資料は投資家の参考に資するよう、株式会社FPG（以下、弊社）の業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されております。
- これらの将来的予測に関する記述および資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき弊社が判断した予測です。
- 本資料に記載された内容は、現時点において一般に認識されている経済・社会等の情勢及び弊社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

【本資料及び当社IRに関するお問い合わせ先】

株式会社FPG IR担当

TEL (03) 5288-5691

URL <http://www.fpg.jp>